

講演会『のびのび自由遊ばせたい!!』

参加者の声



子どもが主体で遊べるのはやっぱり良いなあ。子が自由に遊ぶ・抑圧から自由であるには、大人・親が抑圧から解放される事が大事だとお、と思えたり…
(えんどうよう/3,1才母)

子ども同士の世界に大人が介入することについて、「子どもと遊ぶのが好き」でなく、「子どもが遊ぶのが好き」な大人でありたいというお話に大共感しました。
(山田恵子/3才母)

地域の強制的でない関わりが子どもたちの成長に大きく影響するのには同感です。のんびり普通に見守る姿勢は誰の負担もなくトラブルも少なくなるのかも知れませぬ。(匿名希望)

自分の子どもの頃を考えると、大人に秘密で作ったかくれ家 etc…、大人がおおせんでくれたことより楽しかったなあ…と思ひ出しました。上の子は3年生、もっと自由に遊ばせてあげたいと思うけれど、最近の子どもは、忙しすぎです。かわいそう。場所も時間も与えてあげたい。
(矢野川圭子/8,6,2才母)

子どもをずっと見守れる居場所、本当にあったらいいと思った。何かしたいと思った。(村井知子/4,2才)

たっちゃんが「Try & Error」という言葉を何回もおっしゃっていて、常に前を向きつつ、自分を省みる姿を素晴らしいとおもいました。(松永由希子/4才母)

心に残ったたっちゃん

「遊ばない自由」もあるんだよね
たごっこパークにきていつも漫画とお菓子を広げて、一日中ごろごろしているT君。
それも100日毎日同じ！筋金入りです！でもこれがT君の一番望む過ごし方。自分なりの過ごし方が出来ることと、自分なりの過ごし方を尊重してくれる場所。それを認めてくれる周りの存在、それが居場所なのかな。

「明日が楽しみな子どもたち」を増やしたい
たっちゃんが作りたい世の中はこういうことなんだそうです。
「明日が楽しみ」ということは「誰かに会いたい」「誰かと遊びたい」ということで、孤独ではなく、夢や希望があるということ。

子ども達の遊びはとてども利那的。一瞬一瞬を生きている。
何かのために遊ぶ…その逆算は大人の考え方だ。

最初は「遊び場作り」だったのが、「居場所作り」になり、「まちづくり」になった。
親、若い人、地域の人、行政の人、メディア、それぞれが活動に共感し、それが「協働」になっていった。

市民だから出来ること＝一人の子の成長ずっと見つめていく。
教育現場や行政はどうしてもコマ切れになってしまう。

(川で遊びながらゴミを拾っている子の写真を見ながら…) その場所が自分の居場所になれば、その場所を大切にしようとするんじゃないかな。

子ども達は勉強では、常に「教えられる立場」。
でも、遊びだけは「教える立場」になれるんだよね。

「今の子は」「今の親は」とよく言われて少し引け目を感じていましたが、環境を用意してあげれば子どもは豊かに育つことが分かりました。私達にも出来ることがまだまだある。これからのことを思ってわくわくしてきました。
(山田友子/2才母)

外遊びでも子どもと遊ぶことに躍起になり楽しませる。何かを与えることが当たり前になっている現状に、ゆっくりと寄り添い子どもが遊ぶことを見ていることが自然で大切なのだと気付かせてもらえました。(渡辺綾子/5,2才母)

去る10月15日(金)、NPO法人ゆめ・まち・ねっと代表のたっちゃん、そしてその愛妻であり相棒のみっきーをお迎えしました。午前中は森の中で、午後はスライドショーを見て質疑応答を交えながら「たごっこパーク」の子どもたちを巡るお話を伺いました！

言葉

大人が介入すると、遊びの面白さを削ぐことになる
子どもたちが野球をしていた。一塁への送球は微妙なタイミング、守りと攻めでアウトかセーフか激しい言い争いに。
アウトなら、1アウト走者無し、セーフなら、ノーアウト走者1塁、その瞬間を見ていた人も誰もいない。
険悪な雰囲気にならなかりかけた言い争いも、両チームの年長者が二人で出した結論、1アウト走者1塁
この柔軟な発想、大人では出来ないなあああ！

たごっこパークで、いつも大人が一番最初にお願しているのは、「子ども達と遊ぶのが好きな人」ではなく、「子ども達が遊ぶのが好きな人」。
大人がいると、いろいろやってあげたくなっちゃうけど、遠回りだから面白いことがたくさんある！

NPO法人 ゆめ・まち・ねっと

静岡県富士市で「たごっこパーク」という冒険遊び場を年間100日開催しています。たっちゃんのみっきーはプレイヤーでもあり、NPOの運営もしています。詳しくはこちらをご覧ください！

<http://www.h6.dion.ne.jp/~playpark/>



--- たっちゃんのみっきー ---

市民だから出来ることの可能性を感じ、まちづくりという夢を追い求め続けるために、16年余務めた静岡県庁を2004年夏に中途退職し、同年秋、NPO法人ゆめ・まち・ねっとを愛妻・相棒のみっきーと仲間とともに設立。「人にやさしいまちづくり、そして、人がやさしいまちづくり」を掲げて子どもたちの居場所づくりを中心に大人の共感の輪を広げるべく活動中。

子どもと遊んであげられる、楽しませてあげる親が素敵と思ひ、なんだか一生懸命演じてた自分がいました。でも今日、話を聞いて、見守ってあげることの大切さを知り、何もしないことも素敵なんだなあ〜って気持ちが楽になりました。でも、つい口を出してしまう自分もいますが…家に帰ったら、そんな思いをパパと話せたら伝えたいと思ひました。(匿名希望)

品川で公務員しながら、NPOで子育て支援、遊び場作りをやっています。大人の立ち位置、市民だから出来ること、子どもへのまなざし、忘れがちなプレがちな大切なこといっぱい伺いました！！
(H4/26才,21才母)

我が子も沢山の通かいまなざしの中で育って欲しいと思うこの気持ちがたっちゃんの言葉でさらに強くなった。居場所作りは本当に必要な活動だと思います。
(M・T/3才母)

子どもと、ではなく、子どもが…子どもの発想の大切さ、地域の目は継続的によいところを見ること、など、自然体で子どもを見守るお二人の話は、とても心に残りました。(K・Y)

今まで漠然と思っていたこと、感じていたことをたっちゃんの言葉・メッセージで明確に発信していただいた事ですごく頭と心の整理が出来ました。
(T・T/5,3,0才母)

余白に…
たごっこパークの講演会、今回も子ども達が来て思ひ思いに遊ぶ中で大人達が耳を傾けました。
当日、講演会のことを知らずに遊びに来たお母さんは、スタッフから「子どもが遊んでいる間、参加はおいで！」と背中を押してもらい、とても楽しそうでした。
たっちゃんのみっきーは、10時から4時まで、お昼ご飯も含め、T・T・Mとお話を伺うことができたので、それぞれ、またT・T・Mのこと、吸収したいことが沢山あります。ぜひ、また遊びにいらして下さいね！